

平成21年度「交通計画」

2009年4月8日

講義概要と講義の進め方

【講義名】交通計画(Transportation Planning)

【開講学期】5学期

【単位数】2-0-0

【担当教官】屋井 鉄雄 教授

すずかけ台G3棟10階1002号室 内線5615

【講義のねらい】

空港、鉄道、道路などの都市間交通計画、都市計画の主な対象である街路空間や公共交通システム等の計画、総合交通計画や交通管理計画などの立案に必要な、計画プロセス、交通調査、需要予測、計画評価の各理論とその技術を体系的に理解させ修得させる。

具体的には、次の4項目を講義の達成目標にしている。

- (1) 交通計画と都市・社会との現在までの関わりについて概略説明できること(歴史背景)
- (2) 交通計画の対象、目標、手段、手順の基本的内容を理解し説明できること(基本構成)
- (3) 四段階推定法を総括的に理解し、各段階の代表的なモデルの考え方を説明できること(工学技術)
- (4) 道路、鉄道、航空や総合交通のネットワーク計画を理解すること(計画知識)

【講義の位置づけ】

○創造性育成科目である「インフラストラクチャの計画と設計」(平成16年度以降の創造性育成科目に選定された)を受講した後に、計画理論に関して学生がスパイラルアップするための知識および知恵の修得を目的とする講義である。

○ここいう知識とは、「どのように交通計画は立案されているのか?」、その理論を知ることである。

○ここでの知恵とは、「どのような計画を、どのように立てるべきか?」、「東京のような大都市は、わが国の国土は、東アジア諸国との交通は、どのような方向に進むべきか?」、その答えを探索し、各自の考えを持つことである。

【講義計画】

講義全体の概要は

「交通計画 講義内容」を参照すること

1. 講義の全体像と交通計画の概要
2. 交通計画の目標設定の考え方(1)
3. 交通計画の目標設定の考え方(2)
4. 交通政策の理論
5. 交通計画のプロセス論
6. 交通計画への市民参画の理論
7. 交通調査の理論
8. 交通行動分析の理論(1): ランダム効用理論
9. 交通行動分析の理論(2): 非集計モデルの推定理論
10. 需要予測の体系(1): 四段階推定法
11. 需要予測の体系(2): 四段階推定法
12. 交通計画の対象と代替案
13. 交通計画の評価の理論(1)
14. 交通計画の評価の理論(2)

【成績評価】宿題提出20%, レポート20%, 期末試験60%

【テキスト等】

○テキスト類は、概ね1週間前より屋井研究室HPからダウンロードできるように用意する(パスワードは講義中に知らせるのでメモすること), 各自必ず講義までに印刷し持参すること!

○PPファイルについては、OCWに掲載する予定

○HP上のテキスト類は、①講義用PP, ②講義関連資料, ③講義参照資料に分類されている。③は講義中に直接利用する機会は少ないが、自習用に活用すること。

○その他の参考図書等は講義中に紹介する。

【質問時間】

○質問は随時メールで受け付ける

○火曜日の12:10-13:30を質問時間としているので、事前に連絡してから来室すること

【講義スケジュール】

1. 4月 8日(水) 9:00-10:30
 2. 4月15日(水) 9:00-10:30
 3. 4月22日(水) 9:00-10:30
 4. 5月13日(水) 9:00-10:30
 5. 5月20日(水) 9:00-10:30
 6. 5月27日(水) 9:00-10:30
 7. 6月 3日(水) 9:00-10:30
 8. 6月10日(水) 9:00-10:30
 9. 6月17日(水) 9:00-10:30
 10. 6月24日(水) 9:00-10:30
 11. 7月 1日(水) 9:00-10:30
 12. 7月 8日(水) 9:00-10:30
 13. 7月15日(水) 9:00-10:30
 14. 7月22日(水) 9:00-10:30
- 期末試験 7月29日(水) 予定

【課題レポート】 2-3種の課題レポートを予定している

過去の出題例

1. 自分の住むまち(市区町村)の交通計画のこれからのあるべき方向を、目標として定めてみよ。それを一般の人に配布することを想定したパンフレットとして取りまとめ提出すること
2. 住みやすい都市の規模は何万人くらいか、またその理由を述べよ。
3. 緑ヶ丘駅から西門に至る道路の交通問題を解決する方法を具体的に提案し、実現のための条件を論ぜよ。(今後解決予定)
4. 都内の道路をある時点に走行する車両の総数を調べる方法を具体的に提案し、その実現のための条件を論ぜよ。

- 注意1: レポートは各自電子メールで締め切りまでに送付すること(送付先はHP参照)
2: 同一内容のレポートが複数提出された場合はすべてゼロ点とする
3: 宿題の提出はA4版用紙(電子メールではない)で翌週の講義開始時とする

交通計画 講義の内容

1. 交通計画の目標論

1. 1 交通計画の目標の変遷

- 交通計画の意義
- 交通計画の目標の変遷
- 環境の重視から環境の再生と創造へ
 - 1. 2 交通計画学としての目標への対応
- 量的拡大への予測技術による対応
- 事業の長期化と現在の問題への対応
- 費用便益と環境影響の分析予測による対応
- 計画の策定プロセスの改善による対応

1. 3 これからの交通計画の目標

- 社会の目標と交通計画
- わが国と他国の交通事情を見比べて
- 新しい世界への取り組み

2. 交通計画と交通政策論

2. 1 交通計画の手段

- 交通社会資本の整備による目標の達成
- 交通需要管理政策
- 社会資本整備と政策の組み合わせ

2. 2 交通の自由化政策

- 規制緩和と自由化
- 航空市場の自由化と交通計画
- 交通サービスの民営化

2. 3 環境政策とITS

- 環境改善への交通政策の役割
- ITSによる効率性, 安全, 環境の改善
- 都市政策と交通計画

3. 交通計画のプロセスと制度論

3. 1 計画策定手続き

- 計画策定手続きの理論
- 総合交通計画の制度
- 事業化段階の計画づくり
- 環境アセスメント

3. 2 計画手続きに関わる計画の全体像

- 総体としての計画が共有を目指す4つの概念
- 計画体系のありかた
- 交通計画の種別

3. 3 交通計画における市民参加とパブリックインボルブメント

- 交通計画への市民参加とPIの考え方
- 計画策定手続きとPI
- 計画案の技術的検討とPI

4. 交通調査と分析

4. 1 交通実態調査の理論

- 交通調査と交通統計
- 交通調査のサンプリング理論
- 交通観測による調査論

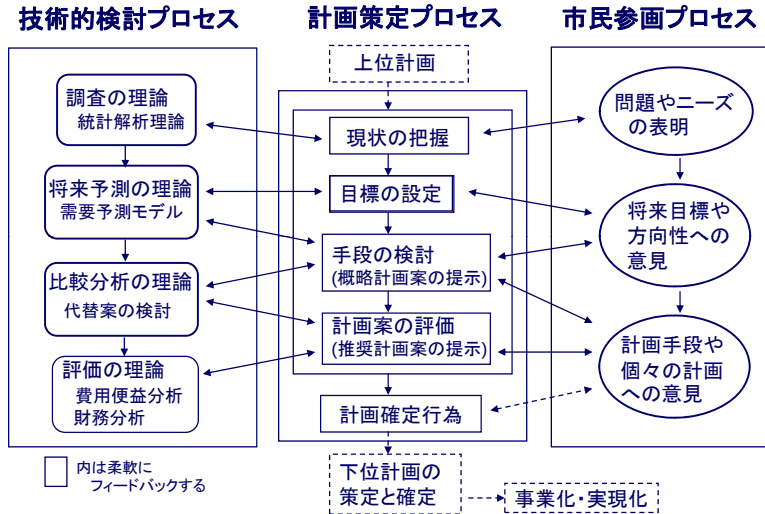
4. 2 政策意識の把握と分析

- 交通計画と政策意識調査
- 交通計画の評価とCS調査

4. 3 交通現象分析の理論

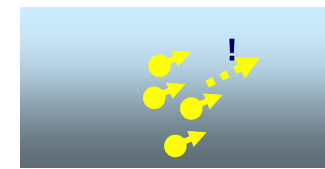
- 移動の捕らえ方とその理論
- 交通現象のモデル化の考え方
- 交通シミュレーションの活用

交通計画の全体像(3つのプロセス)



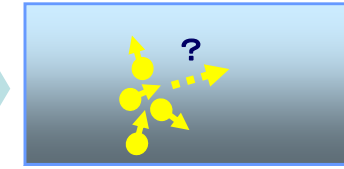
計画の必要性を取り巻く変化

— 必要なのは柔軟で戦略的な長期計画 —



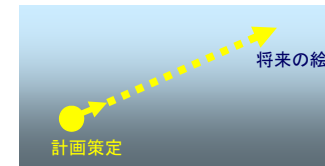
計画不要の時代(成長の時代)

(わが国の過去を振り返ると)



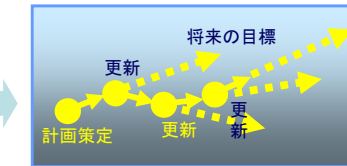
計画必須の時代(成熟の時代)

(わが国のこれからを考えると)



旧来の固定的な

マスタープランの時代

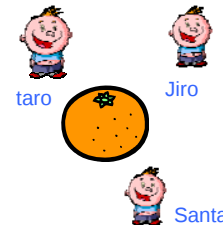


柔軟で戦略的な長期計画の時代

市民参画の要点 「決める前に問う」と「目標の共有」

オレンジ問題

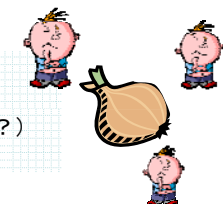
- オレンジを欲しがらる子供に 半分ずつ与えるのは旧来の行政
- 面倒だからといって ナイフを渡すのは無責任な行政



- 「切る前に聴く！」 (決める前に問うことが必要)
Taroはジュース
Jiroはママレード塗ったパン
Santaは種が欲しかった

たまねぎ問題

- 玉ねぎの皮を剥いて出てくるのは涙くらい
- 必要なのは、「将来像や目標の共有」
(肉じゃが、カレーライス、何を一緒に作ろうか?)

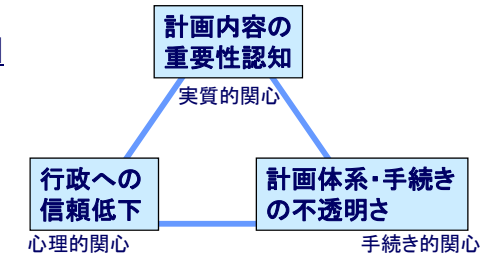


⇔ 協働(分担)するには共有がまず必要

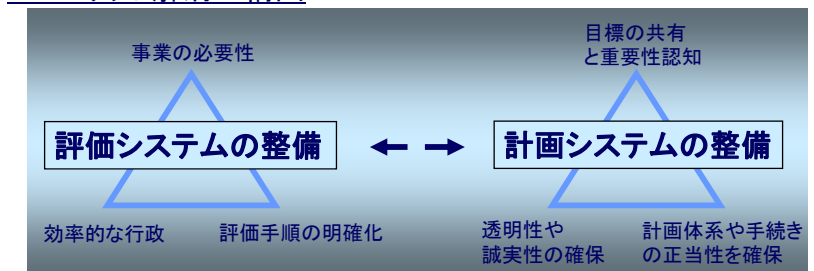
市民参画には、「関係」-「共有」-「分担」の3つのステップがある

社会資本整備を巡る関心の構図と解消の図式

関心の構図



コンフリクト解消の構図



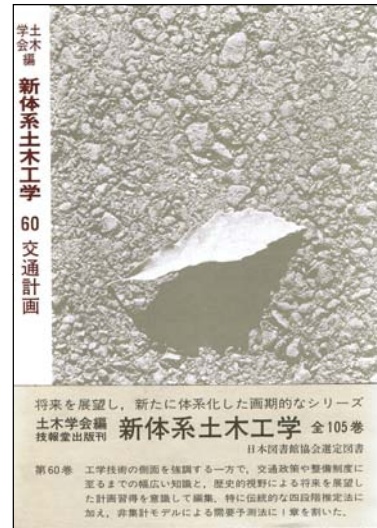
交通計画講義 参考図書一覧

参考図書選定 役立ち度***



森地茂編著 屋井鉄雄分担
日本経済新聞社 2005年 2300円

役立ち度***



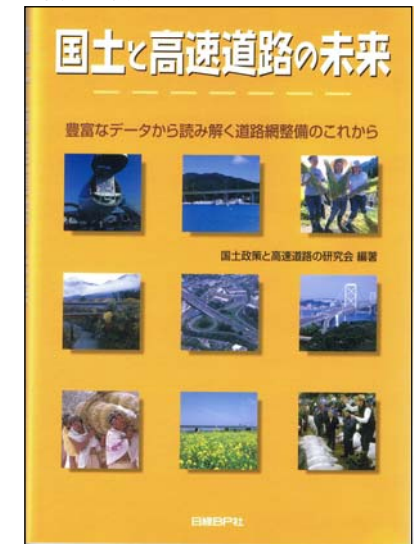
森地茂, 山形耕一編著 屋井鉄雄分担
技報堂出版 1993年 7875円

役立ち度***



森地茂, 屋井鉄雄 編著
日本経済新聞社 1999年 2415円

役立ち度**



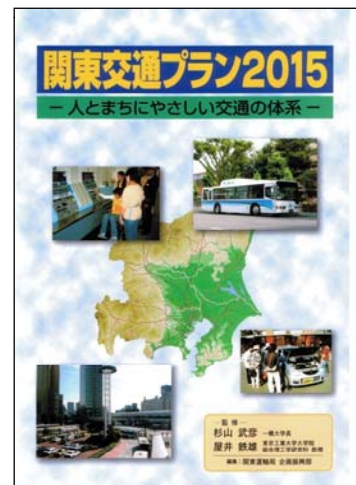
国土政策と高速道路の研究会編著
日経BP社 2004年 2000円

役立ち度**



屋井鉄雄, 前川秀和 監修
ぎょうせい 2004年 2400円

役立ち度**



杉山武彦, 屋井鉄雄 監修
運輸振興協会 2005年 3150円

役立ち度**



川勝平太 監修
日経BP社 2006年 2000円